

ゴミを燃やしたあとの灰もリサイクルできるってホント?

リサイクルの仕事

環境を守る仕事

ゴミを資源に変える仕事

新日本電工

新日本電工株式会社

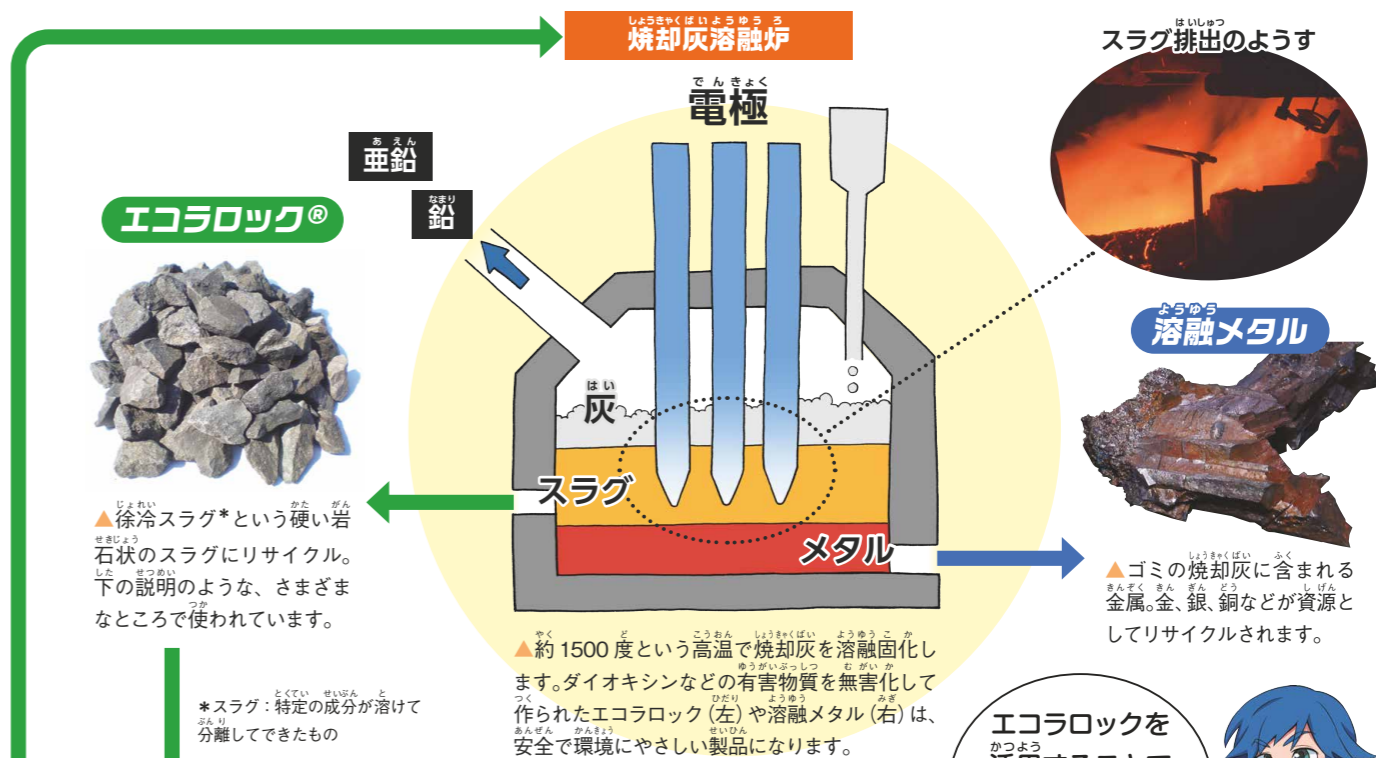
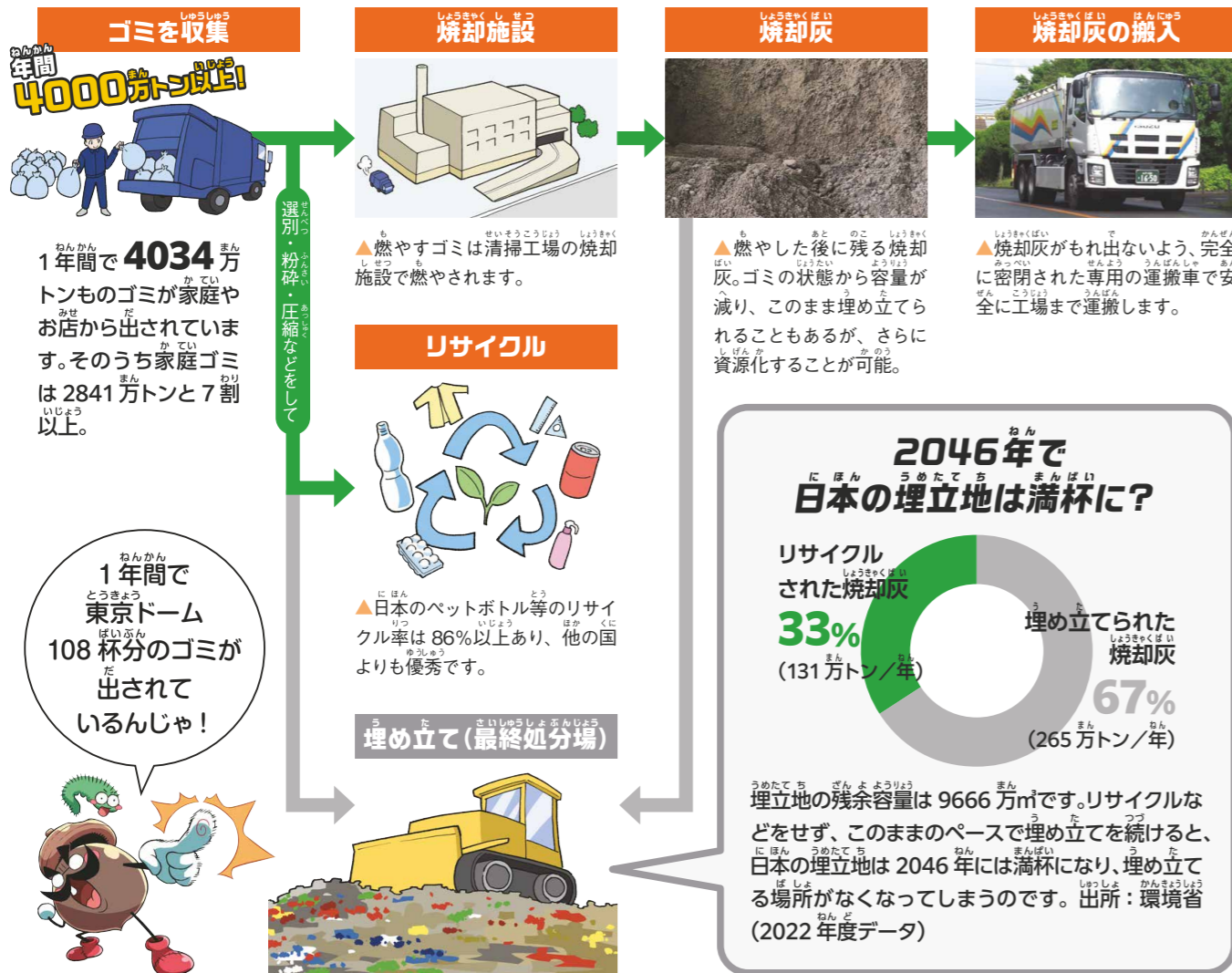
https://www.nippondenko.co.jp/

ビンやカン、ペットボトルがリサイクルされていることは知っている人も多いでしょうが、実はゴミを焼却したあとの灰もリサイクルされています。どのように再生し、何に使われているのか、新日本電工に聞きました。

A ホント。焼却灰を石にして道路の材料にしたり、貴金属を回収して資源としてリサイクルしたりしているよ。

家庭のゴミがどうリサイクルされるのか流れを追ってみよう!

家庭から収集されたゴミは、焼却施設、リサイクル施設、最終処分場に分類されて運ばれます。さらに焼却して出た灰は、最終処分場に運ばれるだけでなく、灰溶融炉をはじめとした専門の施設で資源化されます。



エコラック®は
いろんなところで使われているよ!

道路の材料に!

公園などの遊具に!

ソーラーパネルの下に敷く資材に!

焼却灰から作られたエコラックは頑丈なので、さまざまな場所で活躍しています。主に土木資材として道路や公園などで使われています。



毎日新しい発見があり、やりがいのある仕事です

答えてくれた人 新日本電工株式会社 齋藤 周さん

新日本電工は、茨城県鹿嶋市の工場に4つの溶融炉をもち、毎日数百トンの焼却灰を溶融しています。私の仕事は、焼却灰を効率的に溶融する方法を考えることです。焼却灰にも成分や状態でそれぞれ個性があり、品質の良いエコラックや溶融メタルを作るために、焼却灰の組み合わせや熟する温度などを決めていきます。料理と同じです。相性の悪い材料を混ぜたり、熱を加えすぎたりするとおいしいものはできませんよね。

人の暮らしの変化とともに焼却灰の成分も変化しています。毎日、試行錯誤を繰り返しながら新しい発見がある仕事です。皆さんにも焼却灰のリサイクルに興味を持ってもらえるとうれしいです。

